

令和 7 年度第 2 回宗像市産業振興推進審議会会議録(発言者要点筆記)

日時	令和 8 年 2 月 4 日(水)15:00~17:00
場所	宗像市役所 304 会議室
出席者	中野委員、矢原委員 小島委員、中林委員、嶺委員、八尋委員
事務局	【産業振興部】市場(部長)、寺尾(農林水産担当部長) 【ふるさと寄付推進課】山本(課長)、北島(主幹) 【農林水産課】田村(農林担当課長)、青木(水産担当課長) 川嶋(参事)、新海(水産振興主幹) 永瀬(農業振興係長) 【元気な島づくり課】中野(島づくり担当課長)、橋本(航路担当課長) 【産業政策課】藤原(課長)、花田経久(産業政策係長)、 小田(観光担当係長)、花田愛(商工担当係長)、緒方

1. 開会

事務局より配布資料の確認
併せて事務局より会議の成立報告

2. 会長あいさつ

中野会長よりあいさつ

3. 審議会委員の紹介

中林委員よりあいさつ

4. 前回議事録の確認

一同承認

5. 審議

(1) 宗像市産業振興計画(案) 第 1 章~第 5 章について

事務局 (資料 4 の第 1 章~第 5 章に基づいて説明)

中野会長 第 1 章の計画策定の基本事項から第 5 章の取り組むべき課題までの事項について、質疑等ありませんか。

八尋委員 水産業で言えば、やはり組合員数が減っているというのが 1 番の問題。年配の方の出資金の払い出しが多く、組合としての運転資金が減る可能性がある。その対策について、考えなければならぬ。

嶺委員 事業所数が減少傾向にあると記載があったが、商工会としては、横ばいの状態から若干増えていると認識している。ただやはり、記載されている通り、事業承継が課題になってくることから、対策を考えなければならない。

中林委員 第4章の宗像市の産業の現状の消費者アンケートの中で、加工をしてほしいという声があったが、一消費者の立場からしても、皮を引いた状態の刺身の柵での販売や、加工サービスがさらに充実すると非常に有難いと感じる。また、保冷商品を預かるサービスがあることで、観光客の周遊にもつながるのではないか。

中野会長 貴重なご意見ありがとうございます。

矢原委員 宗像の二大巨頭である、道の駅と宗像大社以外のスポットの情報発信が不足している。今後 DMO に移行する中で、そのあたりを強化しながら、宿泊を含め、滞在時間が長くなるようにしていきたい。この計画を参考にしながらやっていきたい。

中野会長 確認だが、17 ページの商工業の売上高は小売りの売上高で間違いないか。

事務局 こちらは全体の売上高である。

中野会長 ほかになければ、資料 4 の第 1 章から第 5 章までの内容について承認いただきたいよろしいか。

一同承認

(2) 宗像市産業振興計画（案） 第 6 章について

事務局 (資料 4 の第 6 章に基づいて説明)

中野会長 それでは第 6 章の内容について、質疑等はありませんか。各団体が取り組んでいる方針とずれがないか等も含めてご意見をお願いします。

小島委員 32 ページに記載のあるリーディングプロジェクトの耕畜連携だが、米の値上がりに伴って、飼料米が減ってきている。本来は飼料用米をやっていききたいが、現実には非常に難しい。何か手を打たなければ。

中野会長 このリーディングプロジェクトの位置づけは、色々な取組がある中で、その分野を引っ張っていく取組の一つであり、実際に飼料米の生産高が今後見込めないということであれば、ほかの取組についても考える必要があると思うが、そのあたりはいかがか。

事務局 やはり米の価格が非常に上がっており、そういった問題も出てくると思うが、今後は落ち着いてくるのではないかと考える。それとあわせて、国の補助金等を活用しながら、その差を埋めていくことで、この取組を進めていきたいと考える。

中野会長 飼料米だけで農家が事業として継続できるような環境は今後期待できるのか。

小島委員 非常に難しい。需要に応じた生産という言い方がされているが、減反政策の影

響もある。

中野会長 耕作放棄地の減少というのは、重要な課題。里山付近の農地だけではなく農振地域内の耕作放棄地も出てきている。減反政策は終わったが、生産調整は続いている。この飼料米もその対象作物になっていたということか。

小島委員 そうです。それから、米粉工場をという話がよく出てくるが、JAとしてはノウハウもないし、今のところ採算が取れない。現状、米粉の商品が少ない。パンや天ぷら粉としての米粉の活用を宣伝していかなければいけない。また、JAでは安くて安定している加工キャベツに比重を移している状況。そのキャベツの残渣が山ほど畑に残ってしまう。耕畜には使えないかもしれないが、何か活用できないかと考えている。それから今一番問題なのが、いちご農家の減少。今年だけでも5、6人は辞めており、新規就農は1人も増えない。ハウス等の資材が高騰しているのもあり、国の補助金を使っても厳しい。空きハウスの活用も検討しながら新規就農を増やせたらと考えている状況。また、農家は大量生産で市場に出さないと儲からない。道の駅やほたるの里、かのこの里などの直売所に出品する小規模農家は減っている。行政を含めて、農業の魅力を発信し、ほかの業種の方たちを農業に誘致して、この管内に農家を増やしていくことが重要。その継続をお願いしたい。

中野会長 では、このリーディングプロジェクトについては、現実的にこの分野を引っ張っていけるような取組で検討を。

小島委員 それから、漁協と農協、商工会、観光協会含めて、係長クラスが参加する実務的な会議体を作ってもらえないか。地域の事業者たちがタイアップするには、JA内だけではなく、各産業団体の若い人たちの話をまとめていく必要があると思う。

中野会長 事業者の想いか事業者のアイデアなどが生かされるような会議体であれば、有効に機能すると思う。市内の購買率を高めていく、市民の購買ニーズを高めていく上で何か議論はしているか。

事務局 産業振興戦略プロジェクトの中で、各産業団体のご担当者に参加いただいているが、最近は実施内容がルーティン化、マンネリ化してしまっている部分があり、きちんと動機付けをし直した上で、課題を洗い出して、具体的な策を実務者レベルで会議していくということが必要だと思う。道の駅の今回のアンケート結果では、居住エリアからは遠いということもあり、市内の割合が減っているため、市内の直売所の役割にも期待したいと考える。スーパー等への営業も考えられるが、決まりがあり、割り入っていくのが難しいという感触がある。また、担い手については、お金や土地を持っていない若者が新規参入するというのは、かなりハードルが高い。農業法人をやりたいという企業も出てきているため、法人という視点も検討していきたい。

中野会長 域内消費については、道の駅や活魚センター、オアシスがあり、JA が直売所での水産物の販売に着手しはじめている。レガネットでは、宗像の物産コーナーがあったりと、以前に比べると市民が購入できるところが少しずつ増えてきていると実感する。ただ、この計画では域内消費だけを言っているわけではないため、域外からも集め、逆に域外に販路を拡大していこうというプランである。

事務局 我々もいつも迷うところであり、一次生産者の所得向上をするのであれば、域外に高値で売っていきのいいと思うが、価値をきちんと評価してくれるのは市民であると感じるため、やはり、両方をバランス良くやらなければならないと考える。

小島委員 スーパー等では、多くの方が地元の物を見ているが、品物が少し落ちるのも事実。やはり市場の中を通してきたものの方が品物はいい。そういったものを増やすためにも、他企業からの新規就農を増やして、所得が上がるような生産者を作らなければならない。それから、JA むなかたのオリジナルブランドである『きゅうしゅうのひだりうえ』を立ち上げ、カットキャベツはファミリーマートでカット野菜としても流通しているが、まだまだ宣伝が足りない。農産物だけでなく、水産物等でも使っていただき、うまく宣伝していけたらと考えている。

中野会長 水産物についていかがか。

八尋委員 水産物は安定供給が難しい。以前量販店からの話もあったが、指定された日に、指定された品物を納品するというのがなかなか難しい。そのため現在は、市場が中心になっている。だが、昨年、急速冷凍機を導入し、試しに商品を作ってみたところ、使えそうだった。ただ、餌にしか使用できていないため、今年は急速冷凍機を活用した商品を増やして、販売していきたいと考えている。もう一つは、29 ページの施策方針 4 に該当すると思うが、みあれ祭に参加する船が減ってきているということ。どうにか参加する船が増えないかと啓発しているものの、なかなか厳しい状況。

中野会長 以前は七浦の漁船が来ていたみたいだが。

八尋委員 以前は新宮沖の相島や芦屋などからも来ていたが、今は来ていない状況。お客さんが来るからには船が多い方がいいと思い、ある財団の補助金を活用して、参加の御礼に大漁旗を配ろうかと計画したこともあった。しかし、補助金だけでは賄えず、計画を断念した。

中野会長 冷凍技術が発達すれば、出荷調整ができ、安定供給もできる。それから、観光資源を磨くばかりではなくて、中には維持しなければならない資源もあるということですね。

矢原委員 宗像の目玉である、みあれ祭は続けてもらわなければ。

八尋委員 無くなることはないでしょうけど、規模が小さくなっている。

矢原委員 何か補助金等を使えたら。

八尋委員 私はおそらく意識の問題だと思う。

矢原委員 私の方から気づいた点を。25 ページの(3)「市が訪れる観光客」という部分は、訪れる観光客の国や地域、性別や年齢などのターゲットを含めて検討していかなければ、結果が出ないのではないか。それから、27 ページの(2)「インバウンド需要を見据え」という部分もある程度ターゲットを決めた方がいいのでは。例えば、台湾と中国と一緒に営業できないということも聞いている。さらに、29 ページの(1)「DMO の機能を強化」という部分については、専門のスタッフを入れていかなければならない。市からも人を出してはいただいているが、社員 2 名しかいない観光協会の中で、ツアー造成や観光客のアテンドをおこなっている。今後、DMOの機能を強化するのであれば、人材の部分は考えていただきたい。

中野会長 25 ページの観光客の属性についてももう少し分析が必要。27 ページのインバウンドについては、営業やアプローチをかける国をいくつか例に出すといいのでは。DMOの機能の強化については、旅行商品の企画実施等ができる専門的な人材を確保するための財政的な支援が必要。というところでしょうか。具体的な事業は、検討が必要であるが、産業振興計画にどこまで書き込むのかについては、市の方に一任していいのでは。

事務局 またこちらで協議させていただく。

中野会長 嶺委員何かありますか。

嶺委員 商工会なので、色々な業種がある中で業種を絞っては言えないですが、我々も事業を始めるためのセミナーや承継セミナーを事業承継支援センターとやらせていただき、こうしたセミナー等を通して商業を守っていくということが一番大切だと考えている。補助金を活用したことで、事業再建できた、助かったという事業者さんもいるため、情報をたくさん出していただきたい。

中野会長 中林委員から何かありますか。

中林委員 25 ページの(2)「加工品開発等の支援」とあるが、消費者の購買動向についてもう少し踏み込んで、開発に対してその支援をしてもらいたい。

中野会長 これは、毎年市民アンケートを取っているものか。

事務局 はい、市の統一市民アンケートを取っている。

中野会長 そのアンケートの設問の項目の中に、商品に対するニーズとかは聞けるのか。

事務局 入れ込めるかを経営企画課とも調整したいと思う。

中野会長 設問も多いかと思うので、検討してもらいたい。

矢原委員 小島委員が言われたように、現場レベルでの会合ができればいいのでは。現場レベルの方が、より現実味のある話ができるのではないかと思う。

中野会長 各団体が集まる産業振興戦略プロジェクトの会議では、市が色々なアプローチ

- をおこなっても、なかなか意見が出てこない。集まることはとてもいいことだが、前向きに機能する会議でないとならない。
- 小島委員
事務局 集まるだけではなく、各団体で協力できることが何かを考えていただきたい。産業振興戦略プロジェクトの中で、やはりイベントだけに注視してしまっていたため、本日のご意見やご提案を産業振興戦略プロジェクトの皆様にも共有したい。キャベツの残渣の件も例に出しながら、各団体の困りごとを共有し、次回そういったことが話題にできるような会にしたい。また、産業振興戦略プロジェクトの内容も各産業団体の皆様にもきっちりお届けできるようにしたい。現場がどういうことを話し合い、どういうことを考えているのかを共有できるようにしていきたい。
- 中野会長 来年度からこの産業振興計画がスタートするので、イベント会議にとどまらず、この産業振興計画に対する実施レベルでの意見交換ができるように。
- 小島委員 農家を訪問した際に、一番困っていることが草刈り。区費を集めて業者に依頼ということも考えているが、切実な問題になっている。
- 中野会長 先ほどのデータで、経営体が減り、経営規模が拡大し、経営体あたりの耕作面積は増えているとあった。共用部分の維持が困難になっているのではないか。
- 小島委員 山手の方はどんどん荒れてきている。
- 矢原委員 正助ふるさと村でも、法面が高いところばかり依頼がある。
- 中野会長 環境保全に関連する部分だが、荒廃森林の再整備において、林業従事者がどのくらいいて、荒廃森林の再整備を誰に期待できるのか。また、耕作放棄地をこれ以上増やさないとすることも課題として大きいと気にしている。住宅地の近くの農地が荒れると、美観上の問題や犯罪の増加といった住環境の悪化にもつながりかねない。多面的機能だけでなく、耕作放棄地の対策が何かないのか。後継者を自分の子供ばかりに頼らない事業承継や法人の活用といったことで道が開けないか。
- 事務局 荒廃森林に関しては、我々森林環境税というお金を払っている。それが各市町村に交付されており、この森林環境税をもとに整備している状況。また、多面的機能交付金や中山間に関する交付金などもあるが、事務が煩雑という課題もあるため、そういった部分をサポートできるようになれば、農業農村の風景を保っていけるのではないかと思う。それ以外にも ICT を活用し、ラジコン草刈り機等を積極的に導入していくことで、農村を守っていこうと考えている。
- 小島委員
事務局 林業従事者は何名かいるのか。
片手ぐらいの形態はいる。しかし、木材価格の低下や、材を下ろす際に多額の費用がかかるといったところから、割に合わず、林業のみで生活するというのは厳しい状況。
- 中野会長 林業にとらわれずに、荒廃森林の再整備ができないか。

矢原委員 農地の荒廃が進むことで、外国人がガラクタを置く場所になっている。地元の人たちも怖い思いをしているということも聞く。

中野会長 議会とコミュニティ会長の意見交換会でも出てきていたが、池野地区はそれが多いとの事。自動車の解体で油が出たりといったこともあるという話も聞いた。

矢原委員 そういう業者の中でもきれいにしている業者とそうでない業者がある。悪い業者と良い業者を区別するわけではないが。

中野会長 個人の財産権の問題があるため、難しい。国も法令でもあれば別だが。

事務局 農地に限らず、495号線沿いなどは現実的に多い。

中野会長 ほかに何かありますか。では私から最後に一つだけ。域内循環も大事だと思うが、地域経済というのは、域外をターゲットにしつつ、域外にも売っていくということもしなくてはならない。そういった点を考えると、地産地消や域内循環率を高めるという意味での市民アンケートは有効であると思うが、ニーズの把握を市民アンケートだけに頼るのは少しリスクがあると感じる。それについては柔軟に考えた方がいいかと。

中野会長 そのほかよろしいでしょうか。色々な意見をいただきましたが、これを産業振興計画レベルで修正する部分と、実施レベル具体化する部分があるかと思えます。そのあたりは、事務局の方で振り分けて、整理していただければ。ほかになければ、資料4の第6章までの内容について承認いただいてよろしいか。

一同承認

(3) 宗像市産業振興計画(案) 第7章及び資料編について

事務局 (資料4の第7章に基づいて説明)

中野会長 今説明があった内容について、御質疑と意見あわせてありますか。

小島委員 先ほど写真撮影があるとか。

事務局 写真撮影は必須ではないため、名簿の掲載についてご了承いただければ。

中野会長 名簿の掲載はよろしいでしょうか。

一同承認

中野会長 私の方から。先ほど、中林委員からも計画を作って終わりではなく、その後の進捗がどうなっているかを確認したいという意見もあったが、事務事業評価というのは、ホームページにもアップされているのか。

事務局 全ては出ていないかと思うが、概要的なものであれば庁議等でも報告しているため、掲載しているかと思う。

中野会長 負担が増える部分もあると思うため、少し検討いただければ。

事務局 基本的に、予算参考資料や決算成果報告書は、産業振興計画に準拠した形で掲載しているが、完全に一致していない状況のため、事務事業評価もした上で、この計画に基づいて、連動した形でアップできるよう見直していきたいと思う。

中野会長 それともう1点。先ほどありましたように実務者レベルでの会議を。

小島委員 そうですね、してほしいですね。

事務局 どういった推進体制にするかは考えていきたいと思う。もちろん、実務レベルで落として、練っていった方が良く考えているが、現時点の役割分担のもと、本計画を推進しますというように記述しているため、記述の仕方を含めて、次回までに検討させていただきたい。

小島委員 うちの参加者は、2、3人連れてきたもいいと考えている。

事務局 産業振興戦略プロジェクトの中で、何でもいいので困りごとを出してくださいと言ってもなかなか出ないため、テーマを決めて進めた方がいいと思っている。担当外の方が来られてもなかなか議論するのが難しいですし、各産業団体によって組織の規模感も異なるため、やり方やアプローチの仕方を含めて、検討したい。

中野会長 やはり、それぞれの実施主体が自ら取り組んでいかなければ産業の振興、地域経済の活性化に結び付いていかないと思うため、お互いがビジネスパートナーという対等な立場で会議することができれば、機能していくのでは。

事務局 市としても共感プラットフォームというものを立ち上げて、民間企業や大学なども入っていただき、一緒に課題を解決していこうという枠組みを作っているが、その課題が洗い出されていて、その課題について突き詰めて考える人がいなければならない。実務者レベルで考えるというのはとても重要であるため、検討していきたい。

中野会長 全体として、今日いただいた意見を実務者レベルで振り分け、本計画で修正する点については、次回提案いただくということによろしいか。

小島委員 課長、部長クラスだとどうしても表現が抽象的になってしまう。実務者レベルの係長クラスであれば、いつ何をといった具体的な意見が出てくるのでは。組織によって異なるとは思いますが、JAとしては総合企画や農業関係といった複数の部署の参加を希望する。

中野会長 本日は審議会のため、産業振興計画の基本的な考え方や主要な取組みについてとなるが、これを実務レベルでどう事業化していくのかということはこの後話していくということが必要。矢原委員、何かありますか。

矢原委員 市民アンケートの中で、「むなかた Pay」についてよく出てきていたということであるが、前もって予告ができれば、宣伝もできると思うため、前持ったの段取りが必要だと感じる。

事務局 通常は当初予算ではあるが、今回は12月補正の段階で今年度予算として確保できているため、詳細を決めてしまえばすぐにでもアピールできるかと思う。

矢原委員 逆に商工会としては、早くしてと言われても難しいのでは。

事務局 売り始めるのは難しいと思うが、PRについては前倒しでできるのではないかと

考えている。

中野会長 では、資料4の第7章の内容についても承認いただいてよろしいか。
一同承認

(4)その他について

事務局 次回開催日について。第3回の審議会は、3月18日（水）となります。

中野会長 以上をもって、令和7年度第2回宗像市産業振興推進審議会を終わらせていただきます。皆さん御苦労さまでした。ありがとうございました。